

学校教育目標	「大地に根をはり、共に伸びよう、天までとどけ」 ～わたしもほくも みんないい 一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～ (知)【すすんで学ぶ子】 問題解決に向けて、主体的に粘り強く取り組む子 (徳)【みとめあう子】 より良い自分を目指し、自分や他者を大切に (体)【たくましい子】 心と体の健康に関心をもち、自ら進んで体力・健康づくりに取り組む子 (公)【あいさつする子】 集団や社会の一員としての自覚と責任をもち、人のために喜んで行動する子 (開)【チャレンジ上矢部】 新しいことに進んで関わり、夢や希望をもってチャレンジする子			
	創立 43 周年	学校長 鈴木 則男	副校長 田宮 真樹	2 学期制 一般学級：19 個別支援学級：8
学校概要	児童生徒数： 639 人 主な関係校： 岡津小 岡津中			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岡津中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>  <言語能力>	岡津中学校 岡津小学校 上矢部小学校	主体的に自分の想いを表現できる子ども  主体的な表現力を育成するための合同授業研究会の推進 及び 体験活動を通じた児童生徒交流の推進

中期取組目標	○一人ひとりの子どもが豊かなかわりの中で安心して学校生活をおくることができるようにし自尊感情を育みます。 ・「何をするのかが分かり取り組むことができる」→「自分の課題を選び取り組むことができる」→「自分の課題を自分で見つけ取り組むことができる」
	○一人ひとりの子どもにとって「クラスが楽しい」「授業が楽しい」「学校が楽しい」学校づくりを推進します。(主体的・対話的・深い学びがある学校) ・1年目は、所属意識がもて、子どもにとって居心地のよい、教室・授業・学校を目指します。 ・2年目は、居心地の良さを基盤にして、話せる、発表できる、表現できる 教室・授業・学校を目指します。 ・3年目は、意見交換し、共に考えることを通して、自分の考えを深めることができる子どもが育つ教室・授業・学校を目指します。

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> 授業改善(生きてはたらく知)	①道徳科を中心に、自ら学びをつくり、粘り強く取り組む子の育成を図る。研究1年目、授業研究会や研修等を実施する。 ②学年での教材研究を充実させ、教科分担任制を取り入れながら多くの教員による学び合いの環境づくりを整え、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。 ③朝学習・読書・家庭学習(課題や自主学習等)を活用し、主体的に学ぶ姿勢と基礎基本の定着を図る。
<b>徳</b> 人権・道徳教育(認め合う心)	①「道徳の時間」の指導を生かし、より良い自分を目指し、自分や他者を大切に育てる。 ②たてわり活動やペア活動など異学年との関わりを大切に、多くの人と触れ合い、認め合う活動をする。 ③人権週間の取組を軸に「よいところみつけ」の行い、誰もが安心して学校生活を過ごす取組をする。
<b>体</b> 健康・安全(たくましい体)	①心と体の健康に関心をもち、自ら進んで体力・健康づくりに取り組もうとす子を育てる。 ②学校保健委員会などの取組を通して、自尊感情を育みながら心の健康を保ち、よりよい生活習慣の定着を目指す。 ③生涯にわたる健全な食生活を目指す食に関する教育、自助と共助の視点をもった防災教育を推進していく。
<b>公開</b> 自分づくり	①教育課程全体を通じて教科等横断的に育成を目指す「資質・能力」として、<自分づくりに関する力(自尊感情を育む)>に焦点を当てた教育を推進する。 ②集団や社会の一員としての自覚と責任をもち、人のために喜んで行動する子を育て、新しいことに進んで関わり、夢や希望をもってチャレンジする子を育てます。
<b>いじめへの対応</b>	①「上矢部小いじめ防止基本方針」に基づき、組織的な情報の共有、対応の充実を図り、一人ひとりが安心して生活できるようにする。 ②月1回のいじめ防止対策委員会を実施し、案件の経過確認を丁寧に行い、再発防止に努め、いじめ防止研修、児童アンケートを定期的に実施します。
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b>	①キャリアステージに応じた目標を設定し、学校組織が効率よく機能できるようにする。 ②校内研修やメンター研修に多くの職員が関わり、学び続ける教職員としての教師力向上を図る。③効果的、効果率的に会議を運営し、校務の充実とスリム化を図る。
<b>特別支援教育</b>	①特別支援コーディネーターを中心にコンサルテーションなど専門機関と連携、研修の機会を設け、教職員の特別支援教育に対する理解を深め、効果的な支援・指導につなげる。 ②居心地の悪さや過ごしづらさを感じている子がないような教育環境づくりを進める。
<b>教育環境整備</b>	①校舎内の教育環境を見直し、職員作業を通して働きやすい職場づくりと組織改善を図ります。 ②GIGAスクール構想に関わり、機器整備を行うとともに、一人一台端末の効果的な活用方法の実践に取り組む。
<b>児童生徒指導</b>	①定期的に児童理解の時間を設け、情報共有し、教師一人ひとりが自分ごととして児童理解・児童指導に関われるようにする。 ②児童理解ノートを活用し、指導の継続、未然防止に役立てる。 ③「上矢部のやくそく」を基に統一した学級指導を行い、専任を窓口とした組織的な指導体制を大切にする。
<b>多文化共生</b>	①外国につながる児童一人ひとりの状況を的確に見とり、担任と国際教室担当の連携を図る。 ②個に応じた適切な指導ができるよう、PDCAを大切にしていく。
担当	国際理解